東京都立新宿高等学校
創立100周年
記念音楽祭
2023年9月24日(日) なかのZERO大ホール
主催　東京都立新宿高等学校朝陽同窓会

ご挨拶

新宿高校はまことに不思議な学校だと思います。音楽ひとつとっても、間口の広さ奥行きの深さ、そして一人一人の先生や生徒が織りなす様々なことが、大きな流れとなって100年の伝統を作り出しています。
この音楽祭で演奏される曲は新宿高校ゆかりの曲ばかり。
池辺晋一郎さんの曲をはじめ、今年3月に亡くなった坂本龍一さんが教育実習で来た時に旋律補作した合唱コンクールの課題曲など、盛りだくさんです。
出演者もプロから初心者まで。そして現役の生徒からなんと90代の同窓生まで、オール新宿の趣です。新宿高校のモットーは大家族主義。それを地で行くスケールの音楽祭となりました。
私事で恐縮ですが、この原稿を書くにあたり、すっかり記憶の彼方の行事を思い出しました。私(18回生)が1年生の時に、第1回合唱コンクールが行われたのです。勉強そっちのけで練習したことなど、しばしのタイムスリップを楽しむことができました。
皆さんも、どうぞ100年の歴史に思いを馳せて、新宿高校のパワーが詰まった音楽祭を大いにお楽しみください。

朝陽同窓会会長　三上彩子(18回)

東京都立新宿高校100周年記念音楽祭にお越しくださいまして、ありがとうございます。
朝陽同窓会主催のこの音楽祭に向けて、私たち朝陽合唱団は20代から80代までの同窓生が集い、それぞれが練習に励んで参りました。コロナの3年間はメンバー全員集合での練習は出来ず、苦しい時間でしたが、負けることなく乗り切り、皆様にお聞かせできるまでに漕ぎ着けました。
創立100周年記念事業の一つとして設立された朝陽合唱団と共に、 歴史ある六声会合唱団、 管弦楽団のOB、OGの皆様、そして未来の同窓生である現役音楽部のメンバーにも参加していただき、幅のある音楽をお聞かせできるのではと思っております。
最後になりましたが、指揮・指導を担って下さいました先生方と、ピアノ伴奏の先生方に、心より御礼を申しあげます。

朝陽合唱団団長　　鈴木陽子(5回)

音楽祭開催までの道のり

2013年　朝陽同窓会代表幹事会にて、100周年記念事業を募集し、朝陽合唱団の立ち上げや音楽祭の開催などの提案が出され、活動の承認を受けて音楽祭プロジェクト開始

2014年5月　『朝陽63号』に合唱団創設のご案内と参加者募集の記事を掲載

9月　「朝陽合唱団」説明会開催。参加希望者の顔合わせ

12月　当時の吉村同窓会幹事長、龍岡同窓会副会長、100周年実行委員会の大池担当、現合唱団団長の鈴木さん、合唱団設立を提案した宮坂さんが集まり、指揮も含め、基本的な合唱指導を当時の音楽教諭小峰先生に依頼

2015年1月　「朝陽合唱団」設立。高校音楽室(2020年2月まで利用)にて、練習スタート
スタート時参加者26名(男声15名、女声11名)、「校歌」で練習開始

5月　同窓会総会にてお披露目。以降ホームカミングデー、総会で合唱披露

2017年1月　新宿区合唱連盟に加盟。「新宿合唱祭」「音楽・コーラスのつどい」に参加

2019年3月　新宿区牛込箪笥区民ホールにて自主発表会を実施

2020年2月　メンバーも増え、着々と練習を重ねてきたが、コロナ蔓延により練習中断

2022年5月　自主練習開始。7月全体練習再開。音楽スタジオを転々としつつ練習を積む。

7月　会場として「2023年9月24日(日)なかのZERO大ホール」が決まり、「創立100周年記念音楽祭」の開催が決定。合唱団練習本格化

2022年10月　管弦楽部OBOGの参加決定

2023年1月　「六声会合唱団」の第3ステージへの参加が確定

2023年3月　音楽部の現役生の参加決定

2023年9月24日(日)　「東京都立新宿高等学校創立100周年記念音楽祭」いよいよ開幕!

音楽祭開催にあたって

昭和45年赴任の音楽科教諭は野村満男先生。平成元年に藝術高校への転勤までの勤務でしたが、記憶に残る仕事は3つあり、1つ目は消えそうだった池辺晋一郎氏創部の管弦楽部の中興。2つ目は昭和47年度から始めた合唱コン課題曲の作品募集。3つ目は『学習の指針』の創刊、それらは良い思い出になったそうです。課題曲入選第1号の曲名は、立原道造の詩《爽やかな五月に》月の光のこぼれるやうに　おまへの頬に　溢れた涙の大きな粒が・・・。その翌年の作品では故・坂本龍一氏の補作を受けた入選曲が生まれました。その経緯は先生のブログ(http://tokyocollegium.blog110.fc2.com/)に書かれています
以下は、先生から創立100周年記念音楽祭に頂いたお言葉です。

「普通高校でも才能を持つ人がいて音楽への情熱を抑えきれず進路選択をする人が出てきます。新宿からもホントの〈音楽教授〉になった人は私に知る範囲でも数人。そういう人物を見出す機会の用意も教師の役目。作曲した人も歌った人も、その曲を聴くと昔にタイムスリップできます。MUSICA DONUM DEI(音楽は神の贈り物)!高名な故・日野原医師が〈究極の医療〉と評価した音楽療法のほか、涙するなど身体反応を惹き起こすのも数々ある"音楽のチカラ"のひとつ。人生を豊かにする音楽へ祝辞を超える力を期待しつつ100周年音楽祭の成功を祈念しています。

プログラム

『東京都立新宿高等学校校歌』

作詞 安藤一郎　作曲 清瀬保二　編曲 池辺晋一郎

指揮 小峰和則　管弦楽 管弦楽部OBOG有志＋同窓生有志

第1ステージ　～朝陽合唱団ゆかりの曲～

朝陽合唱団＋同窓生有志
指揮 小峰和則　ピアノ 小林悦子
管弦楽 管弦楽部OBOG有志＋同窓生有志

『Ave Verum Corpus』	聖体賛美歌　作曲　W.A.モーツァルト
『鷗』	作詩 三好達治　作曲 木下牧子
『島へ』	作詞 井沢 満　作曲 武満 徹
『小さな空』	作詞・作曲　武満 徹
『落葉松』	作詩 野上 彰　作曲 小林秀雄

第2ステージ　～新宿高校ゆかりの曲ほか～

朝陽合唱団＋同窓生有志＋教職員
指揮 樋本英一　ピアノ 大野久美子

『春秋の歌』	作詞　興津　誠　作曲　田端和子　編曲　四谷八秒
『あじさいの花』	作詩　高田敏子　作曲 小泉正己 旋律補作 坂本龍一　編曲 野村満男
『ひとしお物語』	作詩 朝倉 環　作曲 池辺晋一郎
『風の子守歌』	作詞 別役 実　作曲 池辺晋一郎
『きみ歌えよ』	作詩 谷川俊太郎　作曲 信長貴富

休憩

第3ステージ　～男声合唱組曲『柳河風俗詩』～

作詩 北原白秋　作曲 多田武彦

六声会合唱団＋朝陽合唱団有志＋教職員
指揮　山田　茂

「柳河」
「紺屋のおろく」
「かきつばた」
「梅雨の晴れ間」

第4ステージ　～唱歌メドレー『ふるさとの四季』～

編曲　源田俊一郎

朝陽合唱団＋同窓生有志＋音楽部現役生＋教職員
指揮 小峰和則　ピアノ 半澤佑果

「故郷」　作詩　高野辰之　作曲 岡野貞一
「春の小川」　作詩　高野辰之／林 柳波改作　作曲 岡野貞一
「朧月夜」　作詩　高野辰之　作曲 岡野貞一
「鯉のぼり」　文部省唱歌
「茶摘」　文部省唱歌
「夏は来ぬ」　作詩 佐佐木信綱　作曲 小山作之助
「われは海の子」　文部省唱歌
「村祭」　文部省唱歌
「紅葉」　作詩 高野辰之　作曲 岡野貞一
「冬景色」　文部省唱歌
「雪」　文部省唱歌
「故郷」　作詩　高野辰之　作曲 岡野貞一

『健児の歌』　作詞・作曲　堀内敬三

会場全員合唱

曲解説

朝陽合唱団が今まで様々な機会に歌ってきた、いわばレパートリーの中から5曲を選びました。「Ave verum corpus」は短い曲ながらモーツァルト晩年の特徴である透明度の高い美しい作品です。この純度の高い和声の移り変わりを表現するには精度の高い音程、音色、バランスが必要です。また外国語曲では言葉を音符に乗せるときに、その音符の位置には母音を一致させ、それより前に子音を響かせる必要があるのですが、これが慣れないとなかなか難しい。耳にはシンプルでも、歌いこなすのは簡単なことではありませんでした。

2曲目の「鷗」は木下牧子さんの人気のアカペラ作品です。オーケストラ伴奏つきのヴァージョンがあることをご本人から伺ってはいたのですが、聴いたことも演奏したこともありませんでした。今回このオーケストラ版の楽譜を団員の方が探しだしてくれて、ついにこれを音にできます。

3, 4曲目は武満さんのとてもゴージャスなハーモニーが楽しめる素敵な作品ですが、各パートを取り出して歌ってみると、本当にこれであっているのかと「?」が4つも5つも付くような不思議な進行に譜読みは悪戦苦闘の連続でした。この曲の練習中に体験入団に訪れた方が、こんな難しい曲は無理ですと入団を辞退されてしまうということもありました。この曲のニュアンスは大人の合唱団でないと表現できないものがあります。そこをうまく出せるとよいのですが。

最後の「落葉松」は、原曲はアルトの独唱曲です。今日演奏する混声版は少し音が多過ぎる印象を私は持ちます。それに版を重ねるたびに増える作曲者の演奏指示を忠実に守ると相当しつこい演奏になります。そのあたりをスリムにすっきり演奏するスタイルもあるでしょうけれど、今回はどうなりますか乞うご期待。

第1ステージ　　指揮者　小峰和則

春秋の歌
新樹会(10回生)の作詞作曲による、毎年開かれる同期会のための歌。50歳を超えた頃に作られた。「朝陽かがやくまなびや」で始まり入学式を、二番では思春期の思いと卒業の記憶、三番では山で遭難死した同窓の友への思い、そして、人生半ばを過ぎた感慨を歌った四番。歌詞は「五十路」から変遷し今では「八十路」。作曲者は音楽部出身、国立音楽大学ピアノ科卒業。

あじさいの花
昭和47年度第10回校内合唱コンクールから課題曲の「手づくり」(現役主体の新宿高校関係者が作曲)が始まる。その昭和48年度課題曲。作曲者は国立音楽大学を卒業、指揮者となる。

ひとしお物語
新宿高校100周年記念・同窓会委嘱作品、生徒公募の詩による。校内合唱コンクール2年生の課題曲である。

風の子守歌
15回生である作曲者数多くの作品中でも広く愛唱される曲。朝陽合唱団の愛唱曲でもある。

きみ歌えよ
コロナ禍で歌えなくなった人、歌わなくなった人がいる。そのような状況下私達は歌い続け今日の演奏会がある。歌えなくなった人、歌わなくなった人へ、そして今日100年の同窓生が歌でつながるために「きみ歌えよ」

第2ステージ　　指揮者　樋本英一

「あじさいの花」は、詩人の高田敏子さんの詩に曲をつけたものです。当時の音楽教諭野村先生に経緯を伺うと「高田馬場まで許諾をもらいに行ったら、学内で使うのであればと許してくださった。紙で何かもらっておけばよかったねえ」とのお話しでした。今回は学内での演奏ではないので、あらためて許諾をとった方がいいと辿っていったところ、娘さんと連絡がつき「母も喜んでくれると思います」と快く許諾していただきました。話す中で、娘さんの旦那様が、新宿高校の1回生であることがわかり、娘さんとこの"縁"を喜びました。まさに「歌でつながっていました」

『柳河風俗詩』は北原白秋の詩です。日本の歌はこの歌に限らず、歌詞に出てくる登場人物や景色の色や匂い、空気感、時間の移りかわりを醸し出す素晴らしさがあります。
この曲集でいえば、柳河の情景の美しさ。実際に行くと昔の名残があって、詩に思いを馳せることができます。歌には訳ありの人も出てきます。「紺屋のおろく」のおろくさんの指先の濃青に金の指輪といった色の対比や大人の色気なども見えてきます。河のほとりに咲く かきつばた。梅雨の晴れ間の水びたしになった芝居小屋。何れも情緒豊かに描かれています。
私自身、高校時代にこの曲集を歌ったことがあります。ただ当時は、歌詞の中の細かいところまで思い至らずにただ歌っていました。90歳を超える方もいらっしゃる大人の六声会合唱団の方々だからこそ、表現できていることが多々あります。そこを聴いていただけるようにと練習してまいりました。
また、団員の皆さんの歌うことへの思いの強さは得難いものです。この曲集を歌い、景色や時代を描ききることで、私たちの命が少し若返ると言いますか、動き始めることも感じています。声と声、一人一人、声の質も魅力も違うのですが、だからこそ、合わさった時に化学反応が起きて豊かなハーモニーが生まれる。それが合唱の素晴らしいところです。男声合唱の力強さとともに詩の深さ、細やかさをご堪能ください。

第3ステージ　　指揮者　山田茂

六声会合唱団コラム

戦後間もない昭和22年10月、新宿高校は、2回生と3回生30名の編成で全日本学生音楽コンクールに臨み、全国一位文部大臣賞に輝きました。その後も優勝を重ね、一躍合唱の有名校になりました。そして昭和25年4月「歌って楽しく聴いて楽しい」をモットーに、古今東西の名曲を歌うグリークラブ『六声会合唱団』が生まれました。そこからとても多くの卒業生が音楽の道に進んでいます。

第1回の演奏会は昭和28年1月11日読売ホールで開催。
今回の音楽祭には、この演奏会に参加されたお二方が70年の時を経て、舞台に立たれます。そのうちの一人、5回生の山本俊次郎さんがソロで歌声を披露します。

今日の音楽祭には、普段あまり合唱をお聴きにならない方も多数お見えになるだろうから、皆さんが良く知っていて、でも合唱としてきちんとしている曲もやりたいね。ということから唱歌のメドレーを選んでみました。かつては小学校の音楽の時間に必ず学んだであろう曲ばかりなのですが、ここ30年くらいの間に学習指導要領から共通教材が廃止され、それによって唱歌も教科書から消えてしまいました。そのため若い世代の方たちには「知らないよ」「聞いたことないよ」という曲もあるかもしれません。本当は何世代にもわたってみんなで歌える曲を持っているということは素晴らしい文化であるはずなのですがね。残念でなりません。
この曲は私が新宿高校音楽部の顧問だったころ、ソプラニスタの岡本知高さんのリサイタルに出演させていただいたときに演奏しました。その時は曲によって、岡本さんがソロで歌ったり、合唱でやったり、岡本さんと部員がデュオをしたりと自由な形で歌いました。今回はその経験をもとに、この曲の混声版、女声版、男声版を適宜組み合わせ、部分的にソロにしたり、重唱にしたり、打楽器を加えたりと、様々なアイディアを投入して自由に演奏しようと思います。一緒にロずさんでいただけるような雰囲気を作り出せると嬉しいです。

第4ステージ　　指揮者　小峰和則

プロフィール

指揮　小峰和則（こみね　かずのり）

昭和34(1959)年東京生まれ。国立音楽大学器楽科ピアノ専攻卒。ピアノを岡山京子、木村浩子、安本良樹、ソルフェージュを飯田隆、声楽を岩隈佳子の各氏に師事。平成17年(2005)年より16年間新宿高校に勤務。その間2019年まで音楽部顧問を務め、11回の定期演奏会を開催、NHKや東京合唱連盟のコンクールなどで好成績を収めてきた。朝陽合唱団では創設以来指揮者を務めている。「四谷八秒」「大嶺和之進」のペンネームで編曲も行なっている。現在都立松原高等学校教諭。

指揮　樋本英一（ひもと　ひでかず/２５回生）

東京藝術大学声楽科及び指揮科卒業。オペラ、合唱の分野で活躍。オペラでは1995年「山椒大夫」(小山清茂作曲・新作初演)を指揮してデビュー後多くのオペラを指揮。2008年自ら主宰するHi's Opera Companyを立ち上げ「フィガロの結婚」を、また2014年新国立劇場にて自ら台本を担当した、オペラ「みすゞ」(石黒晶作曲、世界初演)をプロデュース、指揮した。合唱では1990年より2007年まで東京混声合唱団コンダクター・イン・レジデンスを務める。青山学院大学グリーンハーモニー、慶応義塾ワグネルソサイエティ女声、東京リーダーターフェル等アマチュア合唱団の指揮も多い。全日本合唱コンクール全国大会他の審査員、合唱講習会の講師を多く務める。これまでに東京藝術大学、昭和音楽大学、桐朋学園芸術短期大学、東海大学、新国立劇場オペラ研修所、二期会オペラ研修所各講師を務め、現在日本オペラ振興会オペラ歌手育成部講師。

指揮　山田　茂（やまだ　しげる）

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。栗林義信、畑中良輔の両氏に師事。
在学中、小林道夫氏の指導の下、芸大バッハ・カンタータクラブを結成。独唱、指揮に活躍。芸大卒業と同時に東京混声合唱団に入団。1981年からバスパートリーダー、1987年から2009年までコンサートマスター、2010年に副指揮者、2017年から指揮者に就任。その間、同団理事、合唱音楽振興会評議員を務めている。傍ら、各地の合唱連盟や合唱団に招かれ、講習会や指揮活動も行っている。
主な著書に、「合唱名曲ガイド110ア・カペラによる混声合唱」(音楽之友社 2001)がある。

ピアノ　大野久美子（おおの　くみこ/２７回生）

東京学芸大学卒業、同大学院音楽教育ピアノ専攻修了。大学在学中より二期会創設者柴田睦陸氏の下で研鑽を積み、慶應ワグネル・ソサエティ女声合唱団、東京学芸大学混声合唱団、東京工業大学コール・クライネス等合唱伴奏、現代作曲家の新作発表、声楽家・器楽奏者との共演活動を始める。その後、一時中断していた音楽活動を1999年再開。2004年及び2006年に室内楽コンサート「玉響」を開催。2011年ライプツィヒ・ゲヴァントハウスホールにて日本歌曲伴奏・2013年ウィーン・シュテファン大聖堂モツレク(オルガン)・2014年ザルツブルグ・マリアプライン教会ミサ戴冠ミサ(オルガン)・2016年ハーディング指揮新日フィル定演マーラー交響曲8番(ハルモニウム)等鍵盤楽器奏者として活動。今秋10月バチカン・サンピエトロ大聖堂ミサにてなかにしあかね氏委嘱新曲合唱曲(オルガン)、アッシジ・サンフランチェスコ大聖堂において水のいのち・戴冠ミサ等演奏予定。

ピアノ　半澤佑果（はんざわ　ゆか）

大阪府夕陽丘高等学校音楽科、東京音楽大学ピアノ演奏家コース卒業、同大学院伴奏研究領域を首席で修了。在学中、奨学金を得てイギリス王立音楽院に短期留学。また、CIM at Weikersheim（ドイツ）、CIM at Schloss Engers（ドイツ）、Villa Sandra Piano Academy（イタリア）、Musicfest Perugia（イタリア）などの音楽祭に参加。演奏活動とともに後進の指導も行っており、2013年 PTNAピアノコンペティションF級 特別指導者賞受賞。PTNA正会員、PTNAピアノコンペティションの審査員を務める。現在、東京音楽大学ピアノ非常勤講師、神奈川県立相模原弥栄高校の講師を務める。

ピアノ　小林悦子（こばやし　えつこ/３５回生）

4歳でピアノ、9歳でトランペットを始め、小学校で歌や吹奏楽の楽しさを知る。偶然、朝陽合唱団が参加した合唱祭で恩師と再会した。高校の管弦楽部でホルンを始め、芸大生にホルンを習う。今もOBオケで続けているが、当時の先生は実は小峰先生と高校の同期だった。朝陽合唱団に入って起きた2つの偶然と音楽の繋がりに感謝している。入団後、伴奏ピアノを小峰先生に師事。練習ピアノや合唱祭の伴奏を務めている。落葉松は初めて伴奏を手がけた思い出深い曲なので演奏を楽しむ余裕を持って弾きたいと思う。
今日は朝陽合唱団と管弦OBOGオケの両方で100周年音楽祭に参加できて光栄です。観客の皆様にも楽しかった！と感じて頂けたら幸いです。

東京都立新宿高等学校音楽部

新宿高校と同様に音楽部も長い歴史を持っているが、女声合唱としての活動は平成16年に主顧問に着任した小峰和則によって本格的に始められ、コンクール等でも好成績を収めた。令和元年からは野中裕が主顧問となり、その伝統を受け継いで活動している。ラテン語の宗教曲を常にレパートリーにしているのが特色である。（部長より）みなさんこんにちは。新宿高校音楽部です。私たちは現在、77回生6人、78回生6人の計12人で活動しています。私たちはNコンなどにチャレンジするほか、定期演奏会、校内の諸行事やJR新宿駅のイベントなどに出演しています。今回はこのような素晴らしい音楽祭に参加させていただいて光栄です。今までの練習の成果を出し切れるように頑張ります！

東京都立新宿高等学校管弦楽部

新宿高校管弦楽部は15回生で作曲家の池辺晋一郎氏によって創設され、SPO（Shinjuku Philharmonic Orchestra）と呼ばれています。池辺さんの代を第1代として、部内では、○代＋楽器名＋名前という呼び方がよく使われます。本日の伴奏オケにご出演の辻さん（32回生、SPO18代バイオリン/コンサートマスター）の代の方々を中心に約40年前に現役生の外部演奏会（通称メイコン）がスタート。コロナ禍でメイコンができなかった代もありましたが、今年の5月で第43回を迎えました。本日はその時のコンマス吉田さん（73回生、SPO59代バイオリン/コンサートマスター）も参加してくれています。管弦楽部の歴史や伝統、年代を超えた強い絆を感じていただけると幸いです。

司会　小出アキラ（こいで　あきら/５７回生）

2010年4月札幌テレビ放送入社。ラジオ、テレビのさまざまな現場で実績を積む。2020年からテレビ野球中継・バスケットボール中継担当。2021年9月30日 退社、独立。フリーアナウンサーとして生島企画室所属。
現在は、2021 年 11 月~ Abema TV 格闘チャンネル『RISE』実況、2022 年 01 月 ~ Abema TV 相撲 LIVE 実況、4月～フジテレビ『プロ野球ニュース』MC、22年格闘技世紀の一戦『THE MATCH』実況ほか、様々な番組で活躍。